

編集後記

歴史は過去のこと、とはいいながら、現代社会を映す鏡でもある。歴史研究の状況は、現代の社会状況に否応なく規定されている。現在、歴史研究の現状が、社会史に流れ、あるいは実証主義に埋没しているという批判があるが、これも現代社会において、展望が見えない、方向性が見えないという状況のなかでは、やむを得ないのかも知れない。否、その展望を開くべく苦闘しているというのが、歴史学の現状といえようか。

本会における歴史学習も、その意味からは、苦悩しているといえるかも知れない。本号の特集「近代日本の町村事務」が、社会史批判、実証主義への埋没といった批判に対して、どの程度答えられているかと問われれば、疑問が残ることも否めない。しかし現に、明治・大正期の「町村」の実態について、いままでの歴史研究は、どの程度つかんできていただろうか。大量に発刊された県史・市史などの「自治体史」をも含めて、町村の具体的事務にアプローチしたものなどほとんど見られない。にもかかわらず明治・大正期の町村には、「自治」「自治」など全く認められないということは、ほぼ通説となっている。しかし本学習例会を通して、明治・大正期の町村も、その実態に迫れば、多様なあり方が存在することが明らかになってきている。地方分権が叫ばれているなか、このテーマは決して実証主義に埋没したものではあり得まい。ただしその取り組みに際しては、我々自身、その学習姿勢が問われてくることも、忘れてはならない。

本会としても、この学習例会は実に充実したものであり、その成果がかくも早く公表できたことは大変喜ばしいことである。本号が、これからの町村行政の解明に少しでも役立てられれば幸いである。

(植山 淳)

京浜歴史科研年報 第二一号

発行日 一九九七年一月二六日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒233

横浜市港南区芹が谷五―五九―一二一

大湖賢一方 Tel〇四五―八二五―三七三六

(郵便振替口座) 〇〇二七〇―八一―一五五三三五

印刷 合資会社 横浜 大気堂

横浜市中区真砂町四―四〇